# 令和8年度全国学力・学習状況調査の結果について

令和8年10月
枚方市立春日小学校

文部科学省が今年4月に実施した、令和8年度全国学力・学習状況調査の結果について、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、児童の生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

※調査結果について
教科や出題範囲が限られていることから、全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部分です。

## 学力調査の結果

学力調査結果の中から、本校と全国の平均正答率（対全国比）をお知らせします。

### ＜学力調査結果の概要＞

**〇国語について**

漢字の習熟に大きな課題が見られた。現在の方法で、学校や宿題で学習しているだけでは、児童の習熟に至っていないことがわかる結果となった。当該学年に限らず、それまでの学年で学習した漢字も普段から適切に使用することができるようになるよう、本校の6年間としての取組が必要だと考える。

また、文章の構成の理解にも課題が見られたため、条件通りに自分の考えを書く問題でも、正答率が低くなっていた。1年生から国語科の学習で培っている「ことばの力」を、国語科以外の学習や日常生活でも活用して定着を図るなど、継続した取組が必要である。

一方、学力調査の無答率は低く、児童が粘り強く問題に向き合う姿勢があることがよくわかった。

**〇算数について**

示された情報をもとに解答する課題については、概ね解くことができている。しかし、立方体の体積を計算で求めることや、単位分数の個数に着目して数直線上の「1を表すめもり」を捉えることなど算数的概念の定着に課題が見られた。

基礎的な内容を確実に理解し活用できるようにするためには、普段の授業の中で繰り返し、言葉を使用することや基本問題の反復練習が大切である。また、自らの考えを記述する課題については、授業の中で考えを書いたり、話したりする活動を増やしていくように授業改善をしていくことが大切だと考える。

**「明確なゴールに向かって、粘り強く頑張ることができる」**という子どもたちの**「強み」**を活かしながら、今回かかげた課題を解決するために「今、何をするのか」「これから、何をしていくのか」をこの資料を通してお知らせします。

# 国語科における設問

## 【課題が見られた設問】　２三ア　２三イ

2　花山さんの学級では、夏を快適に過ごすためのくふうについて調べて考えたことを書き、友達と報告し合うことにしました。花山さんは、「暑い夏を快適に過ごすための衣服のくふう」について調べた文章を書いています。次の【花山さんの文章の一部】をよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【花山さんの文章の一部】

**暑い夏を快適に過ごすための衣服のくふう**

1　はじめに

夏休みに外出したとき、長そでの服を着ている人を見かけた。暑いときは、そでがアみじかい方がすずしいのではないか。なぜ、長そでの服を着ているのかイふしぎに思い、暑い夏を快適に過ごすための衣服のくふうについて調べることにした。

2　どうして暑い日に長そでの服を着るのか

「生活と太陽」という本には、「日差しの強いときにはだを出して日焼けをすると、はだがひりひりしたり、水分が失われたりする。」と書かれている。また、「世界の衣服」という本には、「暑い国の中には、はだのほとんどを衣服でおおっている人たちがいる。皮ふに直しゃ日光を当てない方がすずしいのである。」と書かれている。①強い日差しが照りつけるえん天下では、はだを出しすぎないように着る物をくふうすることができそうだ。

では、すずしく過ごせる長そでの服の着方はあるのだろうか。

3　すずしく過ごせる長そでの服の着方はあるのか

「熱中しょうかん境保健マニュアル２０２２」には、暑さをさける衣服のくふうとして、「ゆったりした衣服にする。」、「えり元をゆるめて通気する。」と書かれている。また、「夏のくらし方」という本には、「服とはだの間に風が通るようにえり元やすそをゆったりさせると、すずしくなります。」と書かれている。〈図〉のように衣服の形や着方を意識してくふうすることで、長そでの服でもすずしく快適に過ごすことができそうだ。

〈図〉



では、衣服の形や着方以外に、快適に過ごすくふうはあるのだろうか。

暑いときは、そでがアみじかい方がすずしいのではないか。

なぜ、長そでの服を着ているのかイふしぎに思い、暑い夏を快適に過ごすための衣服のくふうについて調べることにした。

【考察】

２三ア・２三イともに、漢字を正しく書く問いである。

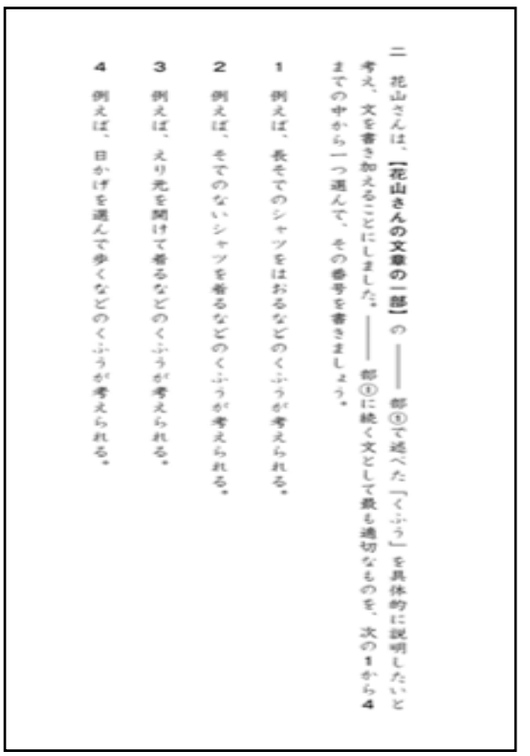
アの『短い』の本校児童の正答率は70%であり、全国平均の80%を10%下回る結果となった。また、イの『不思議』の本校児童の正答率は18%であり、全国平均の45%を27%下回る結果となった。既習の漢字を正しく使用するということに課題が見られた。

『短い』は3年生、『思』は2年生、『不』『議』は4年生で学習する漢字である。ただし、『不』を正しく書けていた児童は60%を上回っており、学習年次は正答率に大きく関係はないと考える。『不思議』に関しては、抽象的な熟語であり、児童が日常的に書く頻度が少ないため、正答率が下がったと考えられる。

これらのことから、日常生活でよく使う熟語だけでなく、既習の漢字を偏りなく学習の中で使用していく必要があるといえる。

新出漢字の学習に留まることなく、下学年で既習の漢字も繰り返し復習したり、授業内や日常生活において積極的に使用するなど、手だてを積み重ねていく。

# 【課題が見られた設問】　２二　２四



二　花山さんは、【花山さんの文章の一部】の――部①で述べた「くふう」を具体的に説明したいと考え、文を書き加えることにしました。――部①に続く文として最も適切なものを、次の１から４までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

１　例えば、長そでのシャツをはおるなどのくふうが考えられる。

２　例えば、そでのないシャツを着るなどのくふうが考えられる。

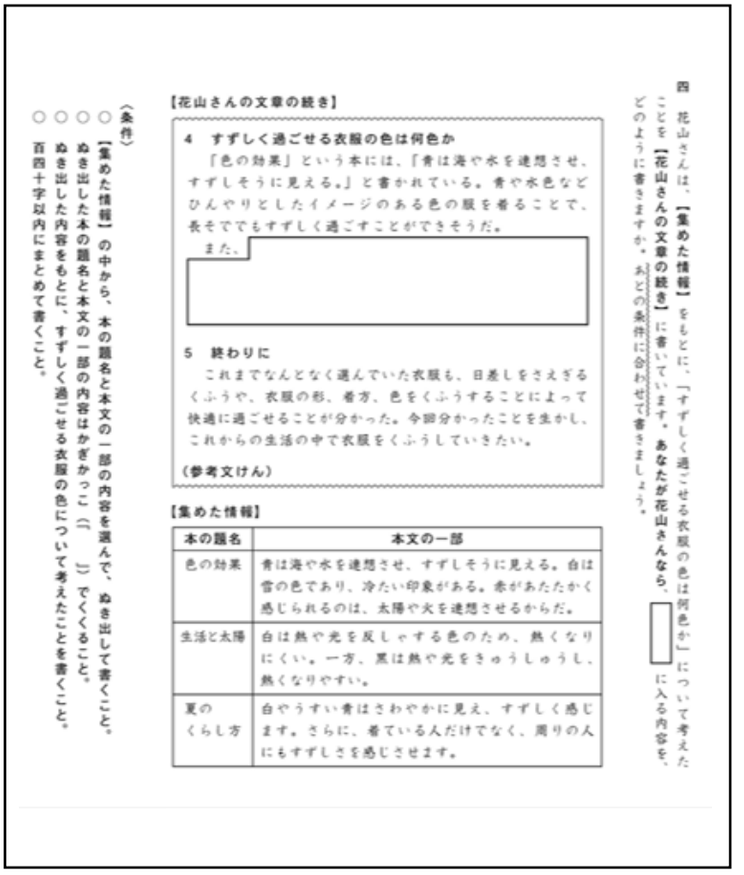
３　例えば、えり元を開けて着るなどのくふうが考えられる。

４　例えば、日かげを選んで歩くなどのくふうが考えられる。

【考察】

２二は、考えとその理由や事例など情報と情報との関係について理解することができるかを問う問題であった。文と文の繋がりを正しく理解できているか否かであるが、本校児童の正答率は32%で、全国平均の49%より17%低かった。文章の構造が正しく捉えられず、「例えば」という接続語が、どの部分の事例なのかを正しく捉えられていないという課題が見られた。

そのために、接続語のイメージが持てるよう低学年の段階から、接続語をあてはめたり、定型文を使って文を作ったりする学習をしていく必要があると考えられる。



四　花山さんは、【集めた情報】をもとに、「すずしく過ごせる衣服の色は何色か」について考えたことを【花山さんの文章の続き】に書いています。あなたが花山さんなら、［　　］に入る内容を、どのように書きますか。次の条件に合わせて書きましょう。

〈条件〉

○　【集めた情報】の中から、本の題名と本文の一部の内容を選んで、ぬき出して書くこと。

○　ぬき出した本の題名と本文の一部の内容はかぎかっこ（「　」）でくくること。

○　ぬき出した内容をもとに、すずしく過ごせる衣服の色について考えたことを書くこと。

○　百四十字以内にまとめて書くこと。

【花山さんの文章の続き】

4　すずしく過ごせる衣服の色は何色か

「色の効果」という本には、「青は海や水を連想させ、すずしそうに見える。」と書かれている。青や水色などひんやりとしたイメージのある色の服を着ることで、長そでででもすずしく過ごすことができそうだ。

また、［　　］

5　終わりに

これまでなんとなく選んでいた衣服も、日差しをさえぎるくふうや、衣服の形、着方、色をくふうすることによって快適に過ごせることが分かった。今回分かったことを生かし、これからの生活の中で衣服をくふうしていきたい。

（参考文けん）

【集めた情報】

| 本の題名 | 本文の一部 |
|---|---|
| 色の効果 | 青は海や水を連想させ、すずしそうに見える。白は雪の色であり、冷たい印象がある。赤があたたかく感じられるのは、太陽や火を連想させるからだ。 |
| 生活と太陽 | 白は熱や光を反しゃする色のため、熱くなりにくい。一方、黒は熱や光をきゅうしゅうし、熱くなりやすい。 |
| 夏のくらし方 | 白やうすい青はさわやかに見え、すずしく感じます。さらに、着ている人だけでなく、周りの人にもすずしさを感じさせます。 |

【考察】

２四は、文章から引用して自分の考えを書く問題である。本校児童の正答率は18%、全国の平均正答率は34%だった。２二では、文章の構造を読む問題であるが、２四は、その元の文章を踏まえて、自分の考えを持たなければいけない。読む段階で、文章の構造の理解に課題があるため、自分の考えを書くということには、より一層の難しさがあったのだと考えられる。

更には、文章の引用という、条件のある文章の作成である。該当部分を引用する目的を児童が自覚できるようにする必要がある。

自分の伝えたい考えは何かを確かめた上で、自分の考えを支える理由や事例を適切に挙げたり引用できたりできるようになる必要がある。

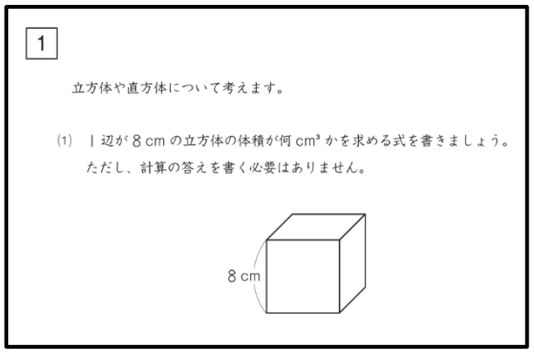
そのために、国語科の言語活動を適切に設定し、習ったことを自分で活用できる場面を設定していく。

# 算数科における設問

## 【課題が見られた設問】 1（1）

**【問題の概要】**

1辺が8cmの立方体の体積を求める式を問題



1

立方体や直方体について考えます。

(1) 1辺が 8 cm の立方体の体積が何 cm³ かを求める式を書きましょう。
ただし、計算の答えを書く必要はありません。

8 cm

**【考察】**（知識・技能）

1（1）は、立方体の体積の求め方の理解を正しく捉える問題だった。この設問に対して、本校の児童の約53%が正答していたが、全国よりも約20%下回ったという結果となった。対して、次の問題である直方体の体積の問題は、全国平均とほぼ重なる結果であった。ここから、体積を求める公式については、一定の理解がみられる一方で、立方体の特徴について理解ができていないという課題が見られた。

さらに、3（4）では、単位分数の個数に着目し、数直線上の1を表す目盛りを捉える問題であった。この設問に対して、分数の理解についての正答率は、約50%であったが、全国よりも約17%下回る結果となった。ここから、数直線上の目盛りの1つ分の大きさに着目して、分数の意味や表し方について理解をするところに課題が見られた。

これらのことから、計算の仕方や公式を覚えるだけでなく、算数の概念や意味の理解を深めることが必要であるといえる。

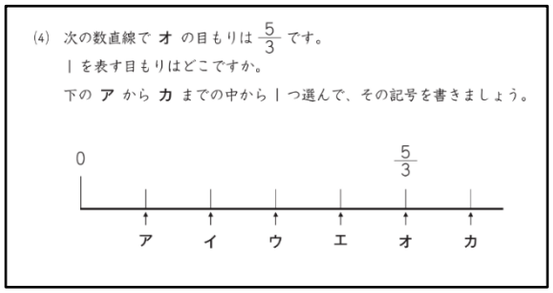
基礎的な内容を確実に理解し活用できるようにするためには、普段の授業の中で繰り返し、言葉を使用することや基本問題の反復練習が必要である。

今後は、こうした観点から校内にて、基礎知識を問うような繰り返し学習を連続的に実施していく。

## 【課題が見られた設問】 3（4）

**【問題の概要】**

**$\frac{5}{3}$を表す目盛りが示された数直線上で１を表す目盛りを選ぶ問題**



(4) 次の数直線で オ の目もりは $\frac{5}{3}$ です。
1 を表す目もりはどこですか。
下の ア から カ までの中から 1 つ選んで、その記号を書きましょう。

0　$\frac{5}{3}$

ア　イ　ウ　エ　オ　カ

## 【課題が見られた設問】3（3）



(3) たいがさんたちは、【ルール3】で遊ぶことにしました。

【ルール3】
①引いたカード 3 枚のうち、2 枚を □ に当てはめて分数をつくります。

$\frac{\square}{\square}$

②大きい数をつくった方が、勝ちです。

たいがさんは、3 4 7 を引きました。

たいが

どちらの方が大きいのかな。

$\frac{7}{3}$　$\frac{7}{4}$

$\frac{7}{3}$ と $\frac{7}{4}$ では、どちらの方が大きいですか。下の ア から ウ までの中から 1 つ選んで、その記号を書きましょう。
また、その記号を選んだわけを、数や言葉を使って書きましょう。

ア $\frac{7}{3}$ の方が大きい。

イ $\frac{7}{4}$ の方が大きい。

ウ $\frac{7}{3}$ と $\frac{7}{4}$ の大きさは等しい。

**【考察】**（思考・判断・表現）

3(3)の問題は、以下の二つの要素で成り立つ問題である。

① 分数の大きさを比較する。

② 大きさの比べ方を通分や小数への変換等を通して考えを記述する。

本校の児童は、まず①の課題を50%の児童が正答していた。一方で、②の課題である、自らの考えを、根拠を示して記述する課題については、25%まで正答率が下がった。

ここからわかることは、分数の大きさ比べという基本問題については、半数の児童が正答できる一方で、その考えを自らの言葉で表現することに課題があるということである。

知識・技能については、先ほど示した取組みを進め、正答率を高めていく基盤づくりを進めたい。

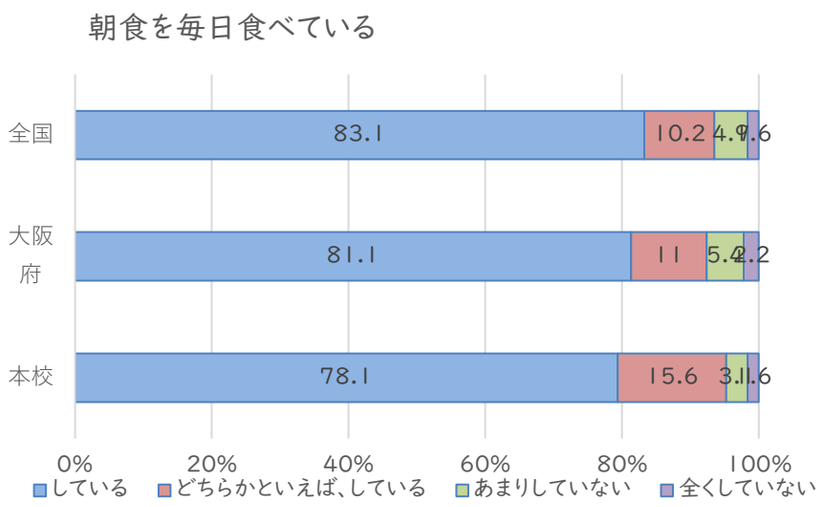
また、自らの考えを記述する課題については、授業の中で考えを書いたり、話したりする活動を増やしていくように授業改善をしていく。

自分の考えを書く経験を日頃から積み重ねることを通して、子どもたちの思考・判断・表現を育んで行きたい。

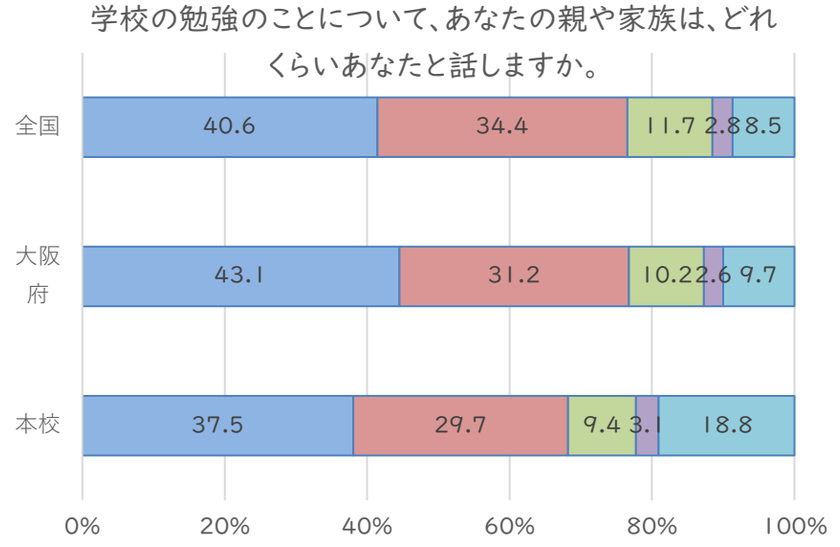
# 質問紙調査の結果

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。

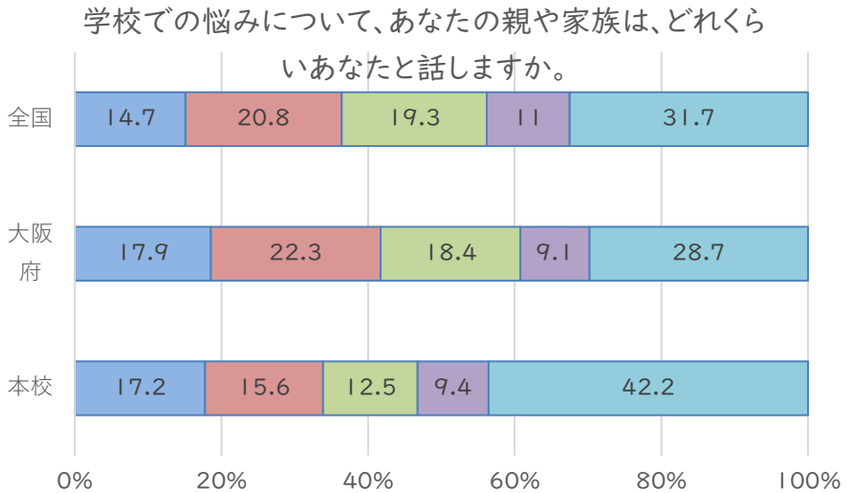
※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合もあります。



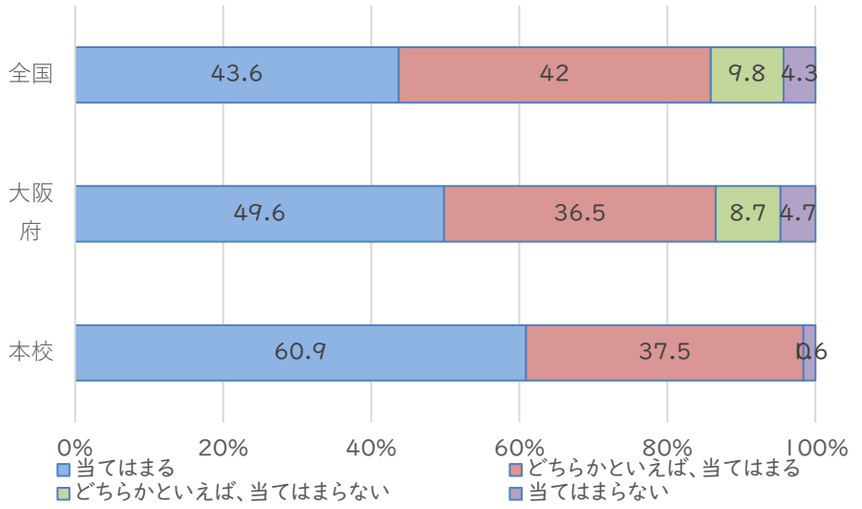

【考察】
約78%の児童が、毎日朝食をとって登校しているが、全国より5%下回っている。肯定的な回答は93.7%と全国を上回っている。朝食は脳と体を目覚めさせ、1日を元気に過ごすという極めて重要な意義をもっており、学力や集中力も高める。健康維持のためにも、家庭でご留意いただきたい。




【考察】
学校の勉強について、親や家族と話すことが「ほとんど、または、全くない」の回答が18.8%あり、全国より10.3%多い。
学校での悩みについて、親や家族と話すことが「ほとんど、または、全くない」の回答が42.2%あり、全国より10.5%多い。
2つの項目において「ほとんど、または、全くない」との回答の多さが目立っている。学年が上がるにつれて成長に伴い悩みを親に話すことに抵抗をもつ児童が出てくることも考えられるが、そのことを考慮しても全国との差が大きい。
（ゲームや動画視聴等の使用時間が4時間以上の児童が32.8%と全国より10.9%多く、因果関係ははっきりしないが、そのことも「ほとんど、または、全くない」との回答が多い原因の一つと考えられる。）

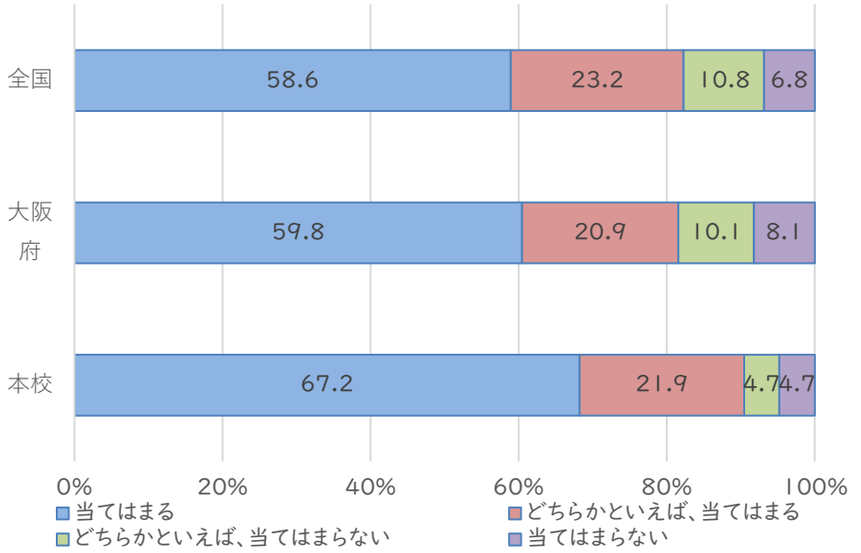


自分には、よいところがあると思いますか。



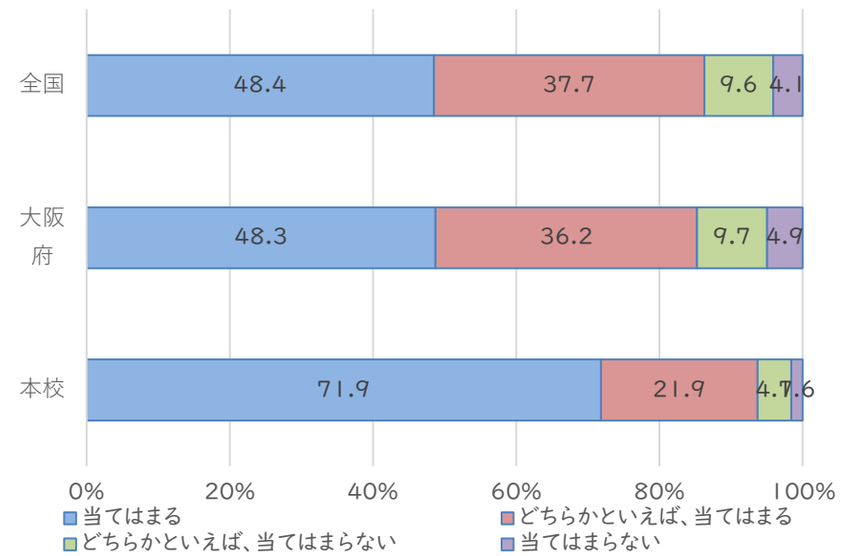

【考察】
98.4%が肯定的解答で、全国よりかなり上回っている。特に強肯定は約61%と17.3%上回っている。
自己肯定感が高い児童が多い。挨拶やチャイム着席、掃除等、学校全体で取り組んでいることで児童が意欲的に取り組み、認められる場面が多い。この3つの項目は春日小学校の児童の強みであり、継続・継承していってほしい文化である。（先生が「認めてくれる」の肯定的回答が約94%あり、児童にしっかりと伝わっていると考えられる。）

将来の夢や目標を持っていますか。

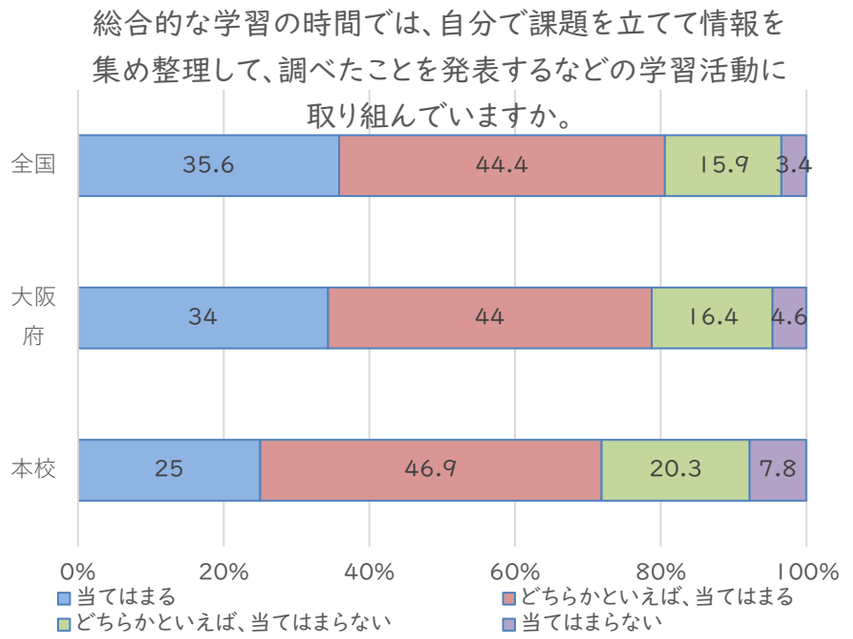



【考察】
約89%が肯定的な回答で全国を約7%上回っている。強肯定67.2%と8.6%上回っている。自己肯定感とともに将来への目標が全国より高いことをふまえ、今後なお一層、非認知能力を高める支援・指導を進めていきたい。
※枚方市は授業で大切にしたい非認知能力を5つのCの視点としてをあげている。
**Challenge（挑戦）**
**Communication（意思伝達）**
**Collaboration （協働）**
**Creativity（創造）**
**Critical thinking（思考判断）**

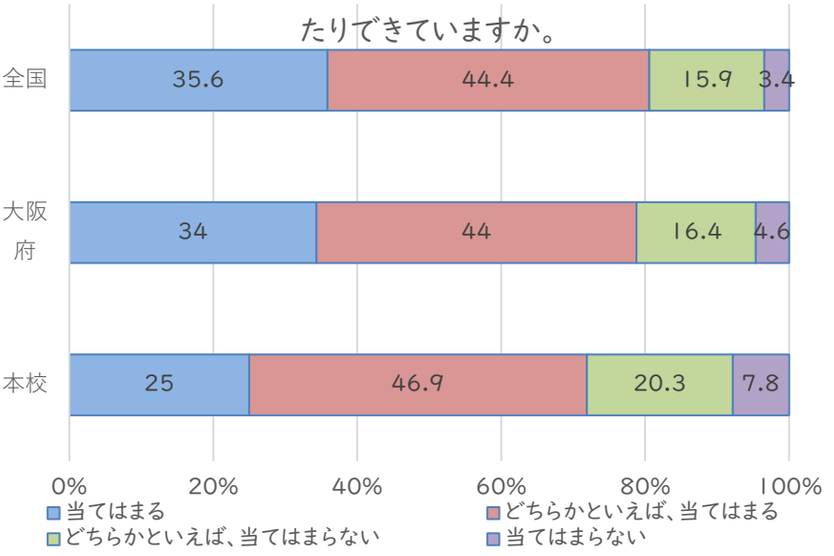
学校に行くのは楽しいと思いますか。



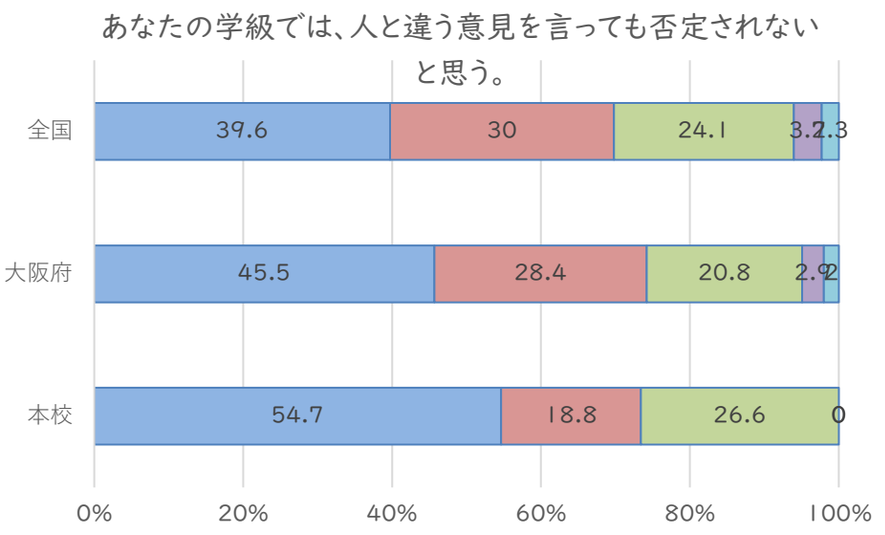

【考察】
約94%が肯定的解答で、全国の約86%を上回っている。特に強肯定は約72%と全国の約48%を約24%上回っている。児童にとって学校が楽しい場であることは何よりも大切である。引き続き児童にとって楽しく安全な学校づくりが重要である。




【考察】
約72%が肯定的回答であるが、強肯定が約25%と全国より10.6%下回っている。課題を立てて情報を集め整理し、調べたことを発信するなどの力は、子ども達がよいよい未来を築いていくために必要な力である。その力をつける為、今年度、自ら課題を設定し、解決に向かって学びを進める「探究学習」をいよいよ各学年で取り組んでおり、今後も、計画的に柔軟性をもって取り組んでいきたい。

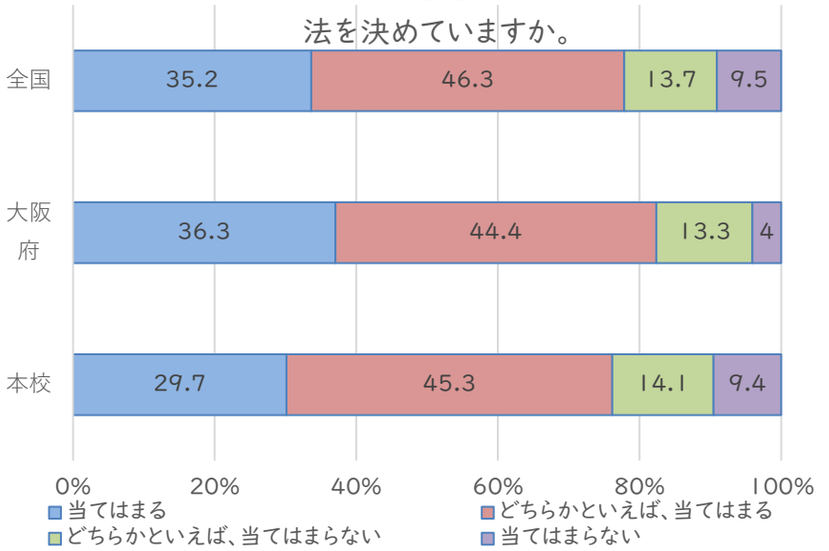



【考察】
76.5%の児童が肯定的回答であるが、全国より3.2%下回っている。強肯定は28.1%と全国より11.9%下回っている。ICTをツールの一つとして使いこなしていくことは現代において必要性が高い。AIやICT等に使われるのではなく、それらを上手く使いこなしていけるように活用の機会を意識して学習活動に取り組ませていきたい。



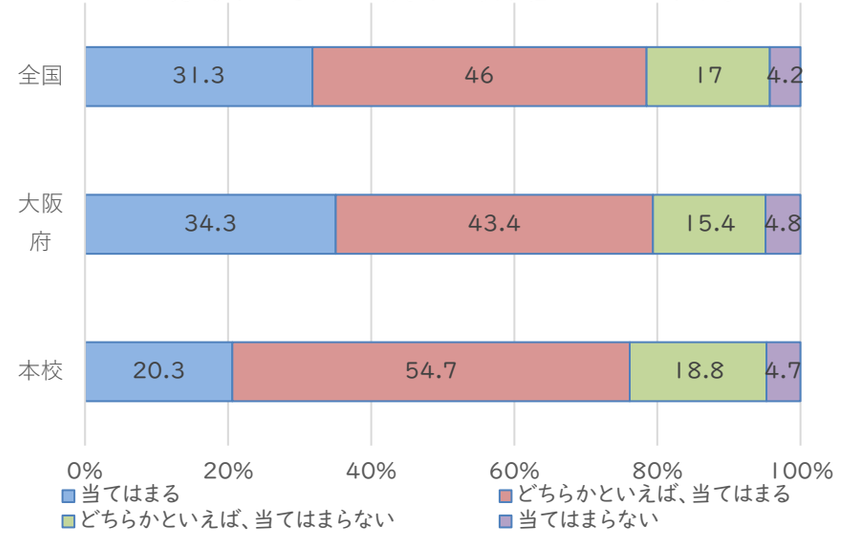

【考察】
強肯定の回答が54.7%あり、全国より15.1%上回っている。人と違う意見を言っても否定されないという、心理的安心感があることは重要である。さらに、違う意見にも耳を傾け、違いを認めたり、そこからさらに自分の意見を深めることを大切にした集団作り、仲間作りに取り組ませていきたい。

あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。



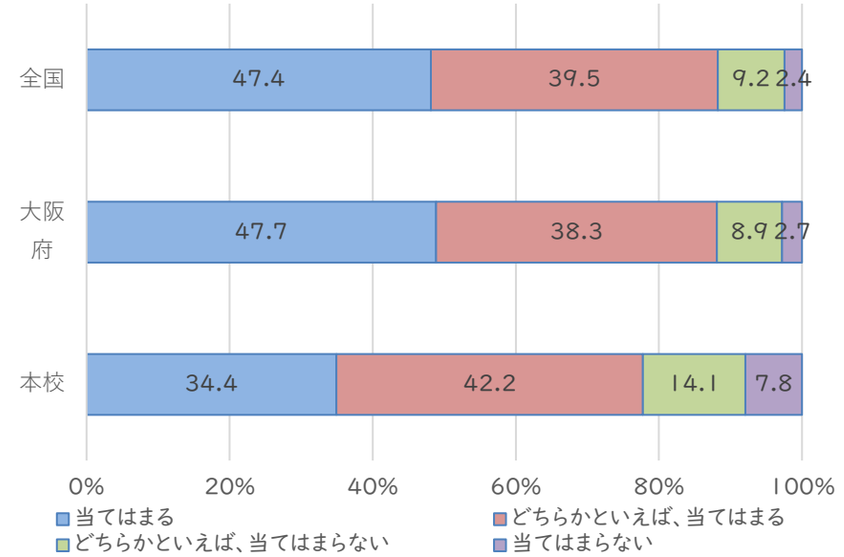

【考察】
強肯定の回答が29.7%であり、全国より5.5%下回っている。肯定的回答においては6.5%下回っている。
学級会において、児童自ら意見を出し合い、そこから自分たちなりの解決方法を決めていく教師のファシリテーター的なサポートがなお一層、必要である。教師主導でなく、時間をかけてで、子ども達が主体的に決めていく機会を多く持たせていきたい。

学級会における学級での話し合いを生かして、今自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか。



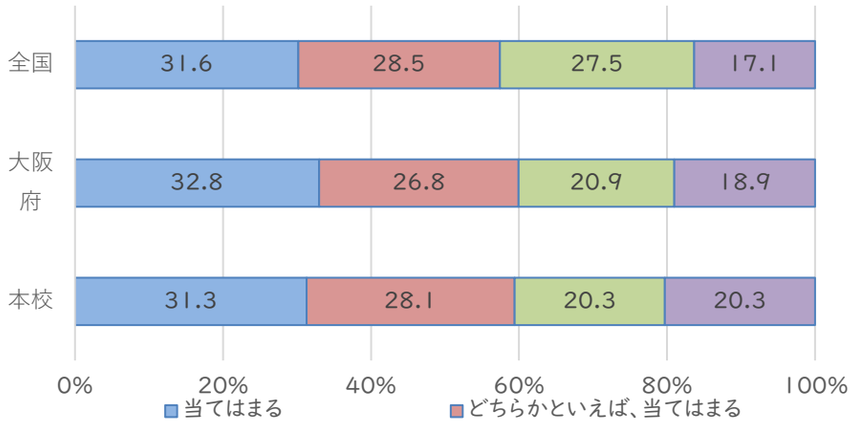

【考察】
強肯定の回答が20.3%であり、全国より11%下回っている。本校の児童の特色として、設定されたゴールに向かって全力で努力する姿が見られるが、自分たちでゴールを設定する機会が少ない。児童自ら意見を出し合い、そこから自分で努力することを決めていけるよう、教師も意識して取り組んでいきたい。

道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。



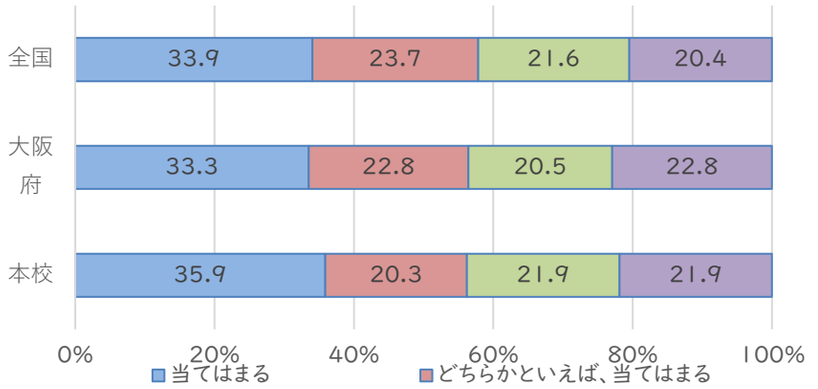

【考察】
肯定的回答が76.6%と全国より10.3%下回っている。強肯定に関しては、13%下回っている。
今年度、校内研修で、道徳研修を3回実施する。また、授業の中で哲学討議を取り入れ、児童自ら問いを考えたり、話し合いを深めることができるよう、椅子を円形にして心理的距離をちぢめ、顔を見て対話できるようにと工夫したりする動きも出てきている。
心を育む教科であるため、自分と違う意見にも触れ、さらに自分の考えを深める学びへとなるよう取り組んでいきたい。

算数の勉強は得意ですか。



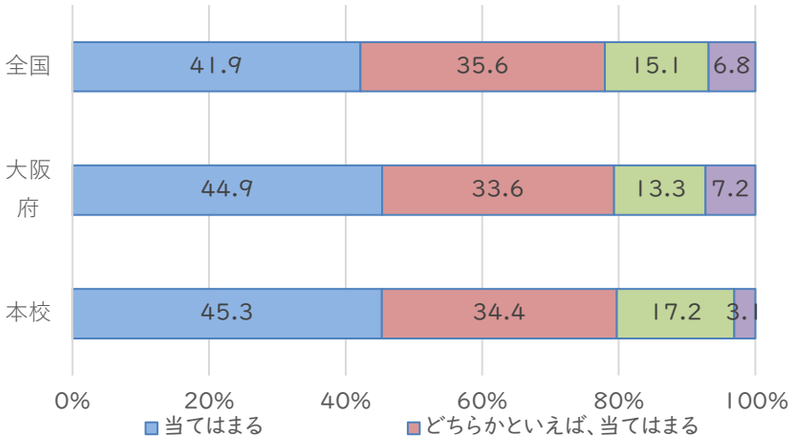

【考察】
質問の回答結果は全国と大差がない。約60%が肯定的回答である。

算数の勉強は好きですか。



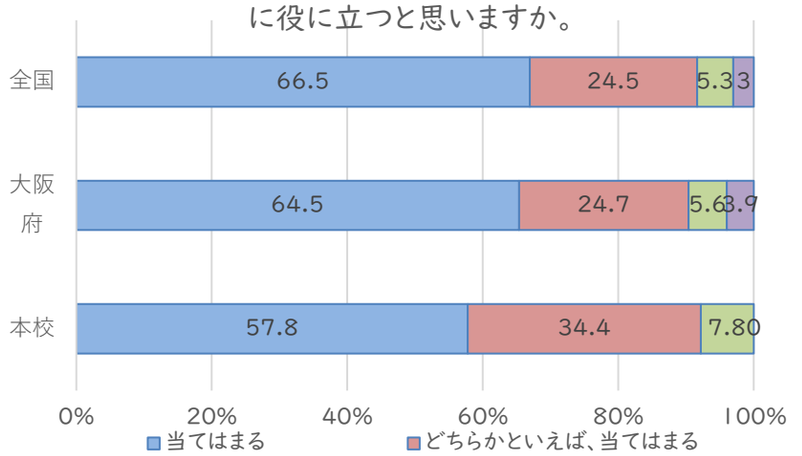

【考察】
質問の回答結果は全国と大差がない。約56%が肯定的回答である。

算数の授業の内容はよく分かりますか。

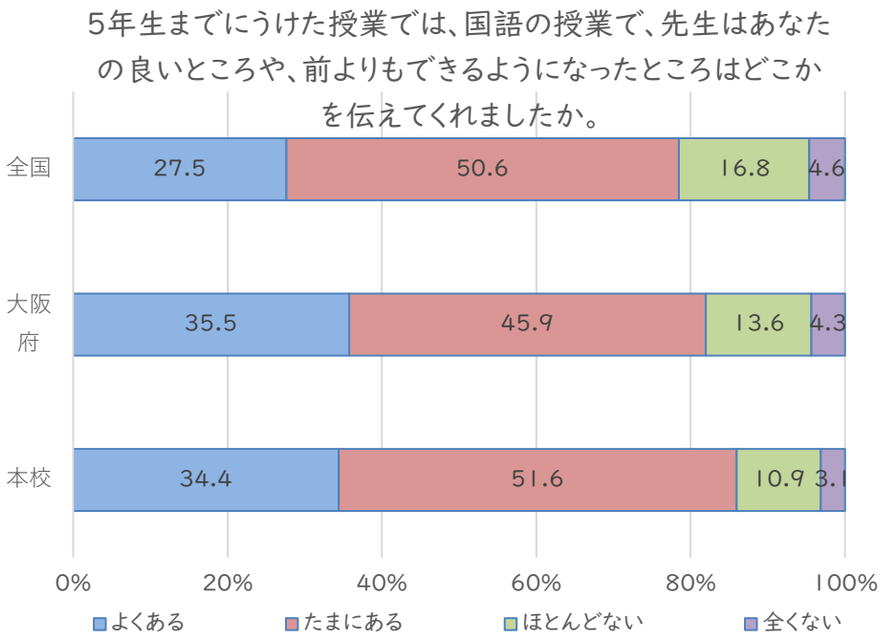


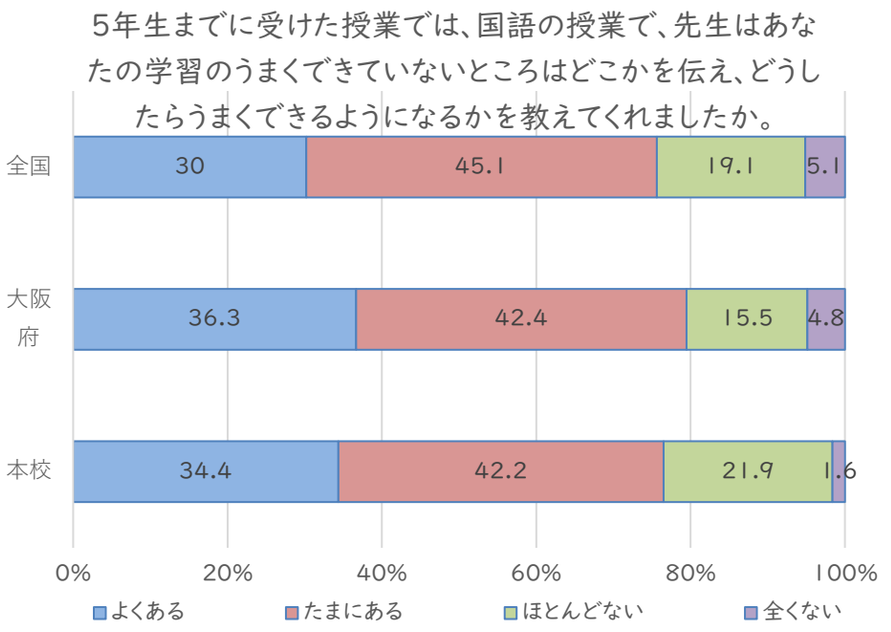

【考察】
質問の回答結果は全国と大差がない。約80%が肯定的回答である。

算数の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思いますか。

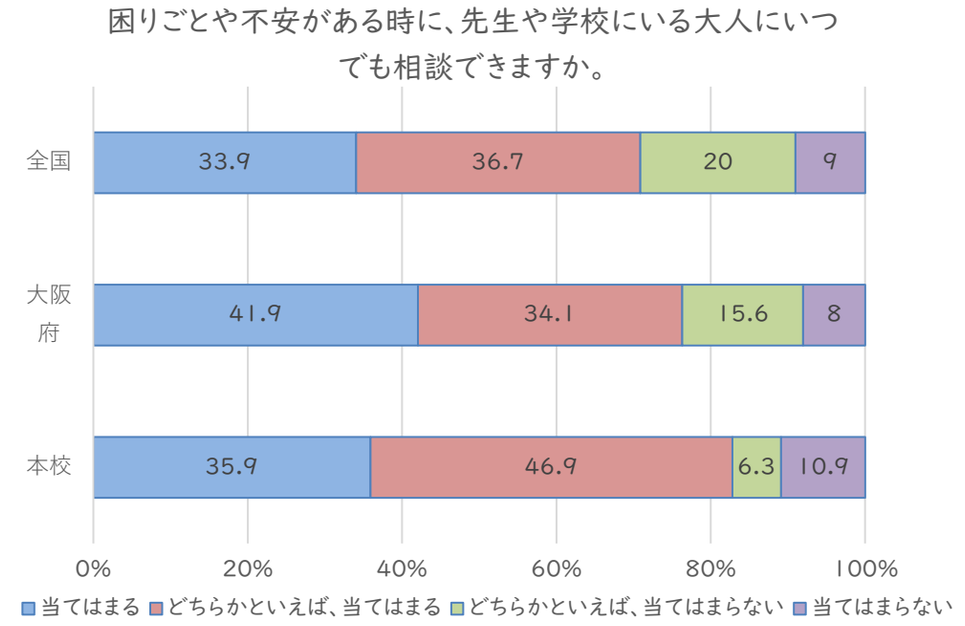



【考察】
強肯定は全国より8.7%下回る結果となる。日々の学びが、生活に活かせるような学力になってほしい。今回の学力テストの考察でもあるように、概念や意味の理解を深める必要がある。



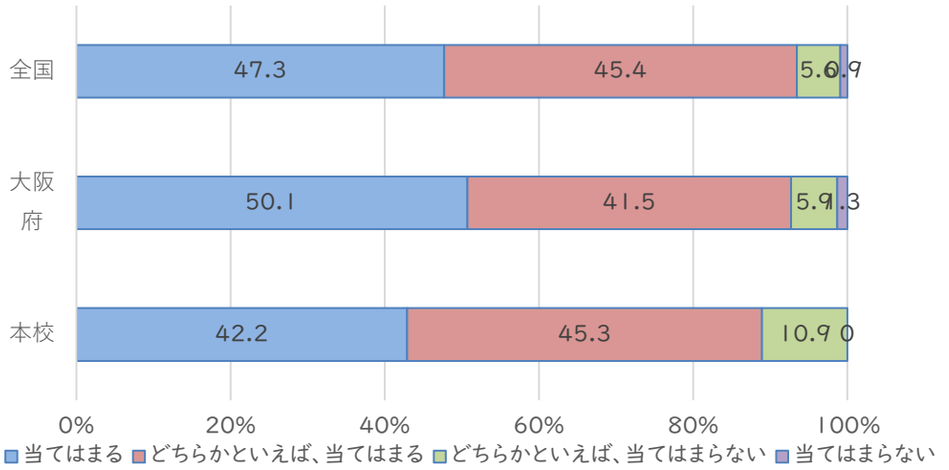




【考察】
1つ目の質問。
肯定的回答が86%と全国の約78%より約8%上回っている。強肯定に関しては、約7%上回っている。児童の良いところ、成長を教師が見取っていると児童が捉えていることは、大切である。
2つ目の質問。
肯定的回答が約77%と全国の約75%より2%上回っている。強肯定に関しては、4.4%上回っている。教師が児童の課題に対してどうしたらうまくできるようになるか教えてくれていると児童が捉えていることは、大切である。
今後は、対教師から児童同士で認め合い、見つけ合い、教え合いを進めていける力もつけていきたい。



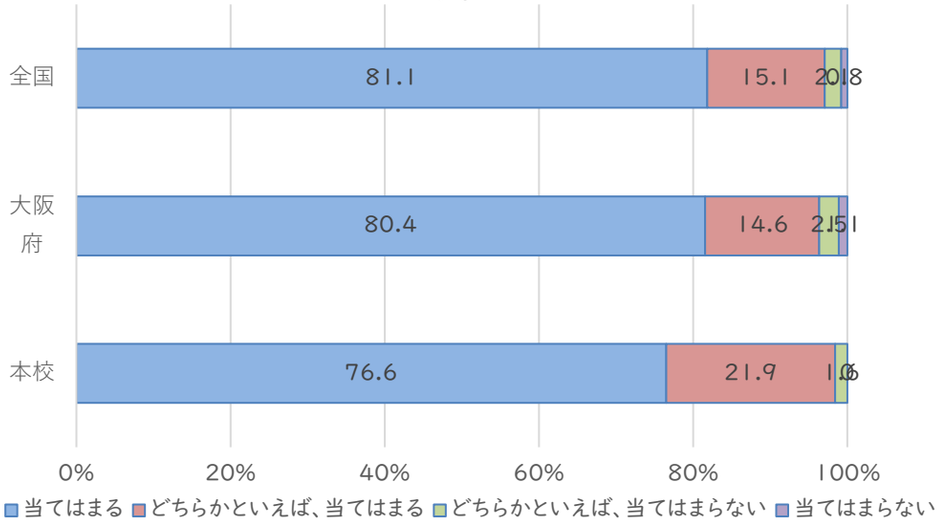

【考察】
肯定的回答が約83%と全国の約71%より12%上回っている。強肯定に関しては、2%上回っている。
本校では担任含め、教職員一団となって、児童のサポートに心を注いでいる。
これからも「チーム春日」として、児童のより良い成長のために、力を合わせて携わっていきたい。

人が困っているときは、進んで助けていますか。




【考察】
多くが肯定的回答であるが、昨年度より6.3%少なく、全国より5.2%下回っている。毎日の学校生活、学習活動を通して、他者への関心と「相手意識」をより高めることを意識した集団・仲間づくりを進めていきたい。

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。




【考察】
強肯定は76.6パーセントの回答ではあり、昨年度より11.4%増えている。しかし、全国より4.5%下回っている。人間関係は複雑で感情によるところもあるが、「いじめ」そのものは許されることではないことを、すべての児童が理解できるよう、なお一層の支援・指導をする必要がある。

分析結果を踏まえて取り組んでいくこと

## ◎学校教育目標「すべての子どもが仲間とともにいきいきと学ぶ春日小学校」

すべての児童にとって学校が「安心・安全」であるために、大人も児童も、「人が困っている時には進んで助ける」「いじめはどんな理由があってもいけない」という『人権意識』を持つことは大切である。教職員は率先して、研修等を通して、人権意識を高め、言動等において児童の模範となるように努めていく。

先ずは、子ども達の話や悩みに耳を傾ける時間を大切に、健康で規則正しい生活をおくれるようにご家庭で取り組んでいただきたいと考えるとともに、これからも家庭との連携を密に、子ども一人ひとりが安心して学校生活を送り、学びに向かえるよう環境を整えていく。

## ◎授業改善について

①探究学習の取り組み

総合的な学習の時間と理科・社会等の他教科との教科横断型の授業を実施し、児童が自ら課題をたて、情報収集・整理し、発表する（発信する）活動を学年で取り組んでいく。各学年で実施計画をたて、今年度の2学期から探究学習を本格的に実施し、3学期には活動の振り返り・実践報告会を校内で開き、来年度の「探究学習」へと繋げていく。

②対教師から児童同士へ

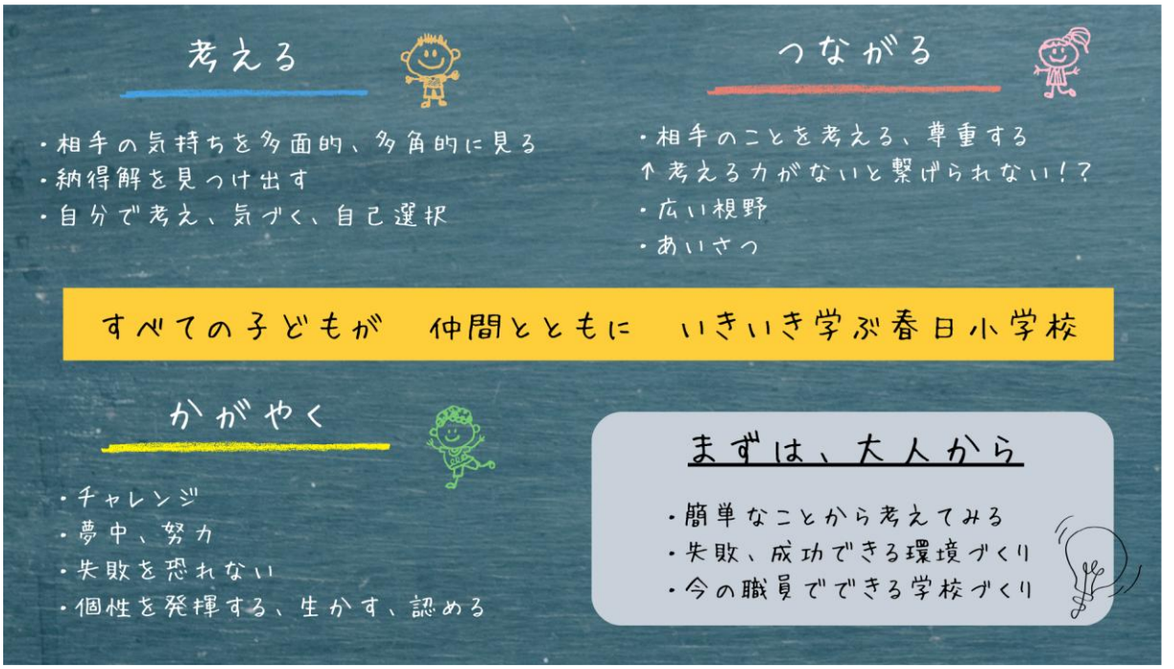
子ども達は「ゴールに向かって全力で取り組む力が強い」傾向にある。これからは、児童が自発的に自分たちの「学びのゴール」を設定したり、課題をたてたりするなど、学びを深めることができるよう、そして、よりよい未来を切り開いていくための「生きる力」の育成に努める。

③心を育む教育

学級やグループでの話し合い活動を通して、自分の考えを深めたり、解決方法を見出したりするなど、児童同士で目的意識やゴールを見据えて取り組む機会をさらに増やしていく。「人と違う意見を言っても否定されない」「失敗してもOK!」「考えの違いを楽しむ」学級を築いていけるよう教職員一人ひとりが意識し、学校全体で取り組んでいく。

④生活に活かせる学力の育成

概念や意味の理解を深める学力をつける為に、自分の考えを書き表すなどの時間を十分に確保する。




※夏季研修で春日小学校の教職員で深めためざす子ども像